

『マイティ・ハート/愛と絆』 原題 A MIGHTY HEART (2007)



映画批評

『マイティ・ハート/愛と絆』 原題: A MIGHTY HEART (2007)

～ジャーナリズム魂と反骨精神で、捜索するマリアンヌ

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

©m.tsukada

国際ジャーナリストとしてマリアンヌ(アンジェリー・ジョリー)は、生まれてくる新しい命とともに夫が取材中に失踪した真相を追究しはじめる。彼女の心中にはテログループに誘惑されたと疑惑が走る。なぜ大使館は操作をしないのか\_\_\_\_\_。

2002年1月23日、マリアンヌ・パール的人生はこの日を境に一変した。ウォール・ストリート・ジャーナルの南アジア支局長である彼女の夫ダニエルが、テロリスト、リチャード・レイドによる靴仕掛け爆破事件について調べていた。二人は、ある仲介人からこの事件について怪情報が得られると聞きつけ、このカラチへとやって来た。その仲介人に会いに出かける際ダニエルは、夕食に遅れるかも知れないとマリアンヌに言い残し、そして戻ることはなかった。不信な思いを抱いたマリアンヌは当局につめよって、夫の行方を探らせる。

On January 23, 2002, Mariane Pearl's world changed forever. Her husband Daniel, the South Asia Bureau chief for the Wall Street Journal, was researching a story on shoe bomber Richard Reid.

2002年1月23日、マリアンヌ・パール的人生はこの日を境に一変した。ウォール・ストリート・ジャーナルの南アジア支局長である彼女の夫ダニエルは、テロリスト、リチャード・レイドによる靴仕掛け爆破事件について調べていた。

The story drew them to Karachi where a go-between had promised access to

an elusive source. As Danny left for the meeting, he told Mariane he might be late for dinner. He never returned.

二人は、ある仲介人からこの事件について怪情報が得られると聞きつけ、このカラチへとやって来た。その仲介人に会いに出かける際ダニーは、夕食に遅れるかも知れないとマリアンヌに言い残し、そして戻ることはなかった。

In the face of death, Danny's spirit of defiance and his unflinching belief in the power of journalism led Mariane to write about his disappearance, the intense effort to find him and his eventual murderer in her memoir *A Mighty Heart: The Brave Life and Death of My Husband Danny Pearl*. Six months pregnant when the ordeal began, she was carrying a son that Danny hoped to name Adam. She wrote the book to introduce Adam to the father he would never meet.

ダニーの死を目の当たりにしたマリアンヌを、彼の反骨精神とジャーナリズム魂が、彼の失踪の理由や必死の捜索状況、死に追いやった殺人者について、手記“マイティ・ハート：夫ダニー・パール”の勇敢な生と死”に書くように導くのであった。当時妊娠6ヶ月だったマリアンヌも、裁判が始まる頃には、ダニーが命名した息子アダムを抱いていた。彼女は、息子のアダムを、もはや会うはずもない彼の父親に紹介しようと思ってこの本を書いたのだった。

## 映画と英語

In the face of death, Danny's spirit of defiance and his unflinching belief in the power of journalism led Mariane to write about his disappearance, the intense effort to find him and his eventual murderer in her memoir *A Mighty Heart: The Brave Life and Death of My Husband Danny Pearl*. Six months pregnant when the ordeal began, she was carrying a son that Danny hoped to name Adam. She wrote the book to introduce Adam to the father he would never meet.

### 【映画史リテラシー】

#### ● 第60回カンヌ国際映画祭特別招待作品

Genre: Drama / History / Thriller

Plot Keywords: E Mail / Policeman / Guantanamo / Extremist / Fear

MPAA: Rated R for language.

- 言語: 上級: 米語、一部にフランス語、パキスタン語 ウルドゥー語 アラビア語
- 中東問題、国際ジャーナリスト
- 中東地域 パキスタン市内の風習

●登場人物 (character): マリアンヌ・パール (ダニー・パールの妻「マイティ・ハート」の著者)ダニー・パール (国際ジャーナリスト)

●原作: マリアンヌ・パールの手記『マイティ・ハート』(潮出版社刊)

◆関連映画

『サラエボの銃声』 原題 Smrt u Sarajevu (2016)

第 66 回ベルリン国際映画祭(英語版)ではコンペティション部門で上映され、審査員グランプリ賞を獲得。

製作国 ボスニア・ヘルツェゴビナ/ フランス 言語 ボスニア語 フランス語

第 1 次世界大戦の引き金となったサラエヴォ事件(1914)。オーストリア＝ハンガリー帝国の皇太子フランツ・フェルディナント大公夫妻をセルビア系青年ガブリロ・プリンツィプが暗殺した史実がある。この事件の百周年記念として当地で上演された戯曲の映画化作品。サラエヴォにあるホテル・ヨーロッパ。ホテルは事件の百周年記念式典の準備に追われていたが、経営難に陥っている。支配人は銀行との交渉に専念するが、従業員たちは賃金未払いからこの日にストを予定する。一方、皇太子の子孫を名乗る青年の報復の企てを知った女性ジャーナリストが立ち上がる。彼女がテロリストの阻止するために対面で口論して説得するセリフは注目に値する。

ボスニア・ヘルツェゴビナの1990年代、内戦後にも民族対立を抱える現代社会を描き出し、ホテルの名前が象徴するようにヨーロッパの現状も暗示している。

第 5 回アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した古典映画名作『グランドホテル』(1932)も参考に。

[映画情報]

『マイティ・ハート/愛と絆』 原題: A MIGHTY HEART (2007)

11 月 23 日(祝/金)より TOHO シネマズ六本木ヒルズほか全国ロードショー

UIP 配給 パラマウント映画

アンジェリーナ・ジョリー主演 ブラッド・ピット製作